

# 令和3年度第2回京都府認知症疾患医療センター連携協議会

## 摘 録

- 日 時 令和4年3月14日（月）16：30～18：00
- 会 場 オンライン会議（Zoom）
- 出席者 別紙のとおり
- 内 容

### 1 開会

定刻により、事務局が開会を宣言。委員長代理として京都府健康福祉部副部長が挨拶。

### 2 報告事項

- 令和4年度京都府認知症関係予算（案）について
- 認知症疾患センター（以下、センター）の指定更新及び事前協議について
  - 資料1～3について京都府高齢者支援課から説明

### 3 意見交換

#### （1）初期集中支援チームとの連携状況について

- 事前に各センターから集計した調査票（資料4-1）に基づき意見交換

#### <主な意見>

- ・後方支援として府内のチームの様子を見学していたが、新型コロナウイルス（以下、コロナ）のため休止中。Zoom等で開催する所も増えてきているようなので、今後は参加していきたい
- ・管内の市町村には検討委員会に参加する等の後方支援を実施
- ・チームから依頼のあった方の鑑別診断を実施。また、必要に応じて受診時にソーシャルワーカーによる直接面談、受診後のフォロー（診察状況共有、介護保険等必要書類作成 等）を行っている
- ・後方支援として年1回の検討会議で情報交換と意見交換を行っている
- ・市町のチームに、受診後の情報共有、当院の患者を地域包括へ繋ぐ等、後方支援している
- ・検討委員会等には参加しており、今年度はコロナの影響で書面開催になっている
- ・外来受診・入院の相談、検討委員会への参加等を行っている。また、他のチームがどういったことをしているか知らないチームへの情報提供を実施
- ・コロナの感染対策のこともあり、緊急の入院対応が十分にできていないのが課題
- ・簡単な事例であれば市内の診断ができる医療機関で対応可能なため、難しい事例だけがセンターに上がってくる

#### （上記に対して）

- ・地域差が顕著に表れているように感じている
- ・地域包括で最も苦慮しているのは入院先の調整に関するケース。実際の所、地域包括からセンターに相談がどのくらいあるか。また、入院や受診に結びついたケースは、通常の相談の内どの程度なのか。もしわかるのなら情報提供いただきたい
- ・各市町村で初期集中に上がってくる件数の内訳がわかれば教えてほしい

(京都府)

- ・各市町村の初期集中支援チームの活動実績は4月時点で集計し、認知症あんしんナビで公開している

## (2) 若年性認知症支援事例の報告

■事前に各センターから集計した事例(資料4-2)に基づき意見交換。

各事例の詳細については資料を参考のこと。

### <各事例と対応状況>

- ・若年性認知症疑いで就労継続のため職場とも情報共有等を行ったが、会社側で安全確保が困難との理由で休職。現在、可能な作業や勤務形態を提案することで、就労継続できるよう助言している
- ・もの忘れや遂行機能障害の症状が出てきたため受診したところ、若年性アルツハイマー型認知症と診断。成年後見人を立て、現在は在宅での生活を支援している
- ・当初認知症専門医療機関で若年性認知症と診断されたが、後に抑うつ的となったため紹介を受けてセンターに来院。当事者研究グループミーティングに参加され、髄液検査を実施
- ・日々の生活で自覚症状を覚え、もの忘れ外来を受診。レビー小体型又はアルツハイマー型認知症の疑いと診断され現在に至る。若年性認知症支援コーディネーターとはまだ繋がっていない
- ・もの忘れが出現し仕事に支障を来していたことから医療機関を受診したところ、前頭側頭型認知症の疑いと診断され、退職。その後センターで確定診断を受け、外来通院を継続中。しかし、センターとは別の市町村に居住されているため、迅速な治療や支援に繋がりにくい状況
- ・外出中に自宅へと帰れなくなったことがあり、勧めを受けてセンターを受診したところ、アルツハイマー型認知症と診断。地元の医療機関に紹介し一旦は終了したが、1年後再診。本人の就労の希望もあり住所地の役所窓口と開業医を紹介。しかし、その更に半年後に再診した際、就労支援はあまり進んでいなかった

(上記に対して)

- ・今後色々なバイオマーカーが現場に導入されてくると思われるので、その説明方法等を考えおく必要がある
- ・診断が確定しない早い段階からでも若年性認知症支援コーディネーターは関わってもらえるので、よければ相談をしてみてもどうか
- ・前頭側頭型認知症には専門性が求められる。距離に心配な面があるならば、かかりつけ医と協力しての対応としてみてはどうか

### (3) 認知症本人・家族教室の実施状況

- 事前に各センターから集計した事例（資料4-3）に基づき意見交換  
各事例については資料を参考のこと。

#### <主な意見>

- ・ヘルプカードの存在を知ってもらう機会として、「ご本人の外出」をテーマにした本人・家族教室を開催する等してもらいたい
- ・センターでも率先して取り組んで行けたらと思う

以上